

設 立 趣 旨 書

1 趣 旨

近年、地方の農山漁村や中山間地域では、少子高齢化や人口減少に伴い、生活に必要不可欠な一次産業や地域の環境維持活動の担い手が不足し、耕作放棄地の増加や里山・森林の荒廃を招いています。人口の減少は地域住民の交流の機会の減少になり、地域のつながりが希薄化することで孤立化が進み、地域の活力は低下しています。

一方で、都市部の住民や外国人観光客の間では、自然体験や農業体験、伝統文化の体験といった地方ならではの資源を活かした活動への関心が高まっています。例えば、稲作や椎茸栽培、炭焼きや薪づくりといった農業・林業体験、座禅や写経などの伝統文化の体験は、今まで体験したことのない人にとっては魅力的な体験です。また、森林の下草刈り・間伐・倒木の除去や海岸の清掃活動を、地域住民と来訪者が協働で取り組むことは、地域住民とそれ以外の住民の交流の機会になります。

しかし、こうした潜在的な需要に対して、都市部の住民や外国人観光客を受け入れる態勢は、地方の農山漁村や中山間地域に十分に整っておらず、地域資源を十分に活用できていないのが現状です。

私が住職を務める豊後高田市の長安寺がある加礼川地区も同様の状況です。かつて田畑であった場所は耕作放棄地となり、倒木や竹林の繁茂によって里山が荒廃しています。ボランティアで参加した大分市の大志生木海岸の清掃活動では、大量の漂着ゴミや不法投棄物が見つかり、観光資源が損なわれていることを実感しました。また、長安寺で開催した座禅や写経に参加した人々から「自分の住む地域にはこうした文化体験の場が少ない」という声を聞き、私にとって身近な文化資源が十分に活かされていないことを痛感しました。都市部から訪れた家族連れや外国人観光客からは「自然や農業、文化を体験できる場所がもっとあればいいのに」との声を聞き、地域資源の持つ潜在力と活用不足を改めて認識しました。

そこで、私は令和5年に地元の有志とともに、間伐したクヌギの木に椎茸の菌を埋め込む作業を行う「駒打ちの会」を立ち上げました。この活動には私の趣味のキャンプ仲間や一般の方も徐々に参加するようになり、定期的な活動になりました。また、参加者同士の交流を深めるために餅つき体験会を行ったり、海岸の清掃活動を行うなど、活動の幅を広げてきました。こういった活動を続ける中で、自然体験施設や農地の賃借、物品の販売も行うようになり、その際に法人であることが求められ、任意団体で活動することに不自由を感じるようになりました。また、申請しようとした補助金が任意団体を対象外としていて、申請できないことがありました。さらに、適正な会計処理を行い、今後も組織的・継続的に活動するためには、法人になる必要があると考えるようになりました。

その中で、この活動が営利を目的とせず、また地域住民の人々の理解や協力が不可欠であることから、NPO法人になるのが最適であるという結論に至りました。

今後NPO法人になった後は、自然環境の保全・活用、農業・林業体験を通じた地域活性化、観光・交流の場の創出、伝統文化体験の提供を通して、持続可能な地域社会の実現に寄与する活動を行っていきたいと考えています。

2 申請に至るまでの経過

令和5年 3月 地元有志で椎茸の駒打ち実施
令和5年 4月 伐採していないクヌギの木を利用した「駒打ちの会」を発足
令和5年12月 地元有志とキャンプ仲間が集まって親睦会を兼ねた餅つき体験会を実施
令和6年 3月 地元有志にキャンプ仲間家族を含めた椎茸の駒打ち体験の実施
令和6年 4月 大分市のキャンプ仲間とビーチクリーンを実施
令和6年 9月 地元有志とキャンプ仲間です座禅体験会を実施
令和6年10月 キャンプ仲間が一般の人を連れて長安寺の駐車場で親睦キャンプを実施
令和6年12月 親睦会を兼ねた餅つき体験会を実施
令和7年 3月 地元有志とキャンプ仲間が一般参加者を募集して椎茸の駒打ち体験会を実施
令和7年 4月 大分市のキャンプ仲間が一般参加者を募集してビーチクリーンを実施
令和7年 6月 大分市のキャンプ仲間が一般参加者を募集してビーチクリーンを実施
令和7年 6月 地元有志とキャンプ仲間がNPO法人化を確認

令和7年10月26日

NPO法人笑顔の種おおいだ
設立代表者 氏名 松本量文